

死亡2人 橋桁東側端で発見

撤去に11カ月、検証長期化

静岡バイパス工事事故1週間

静岡市清水区尾羽の国道1号静岡バイパス下り線の高架道路工事現場で橋桁が落下し作業員2人が死亡、6人が重軽傷を負った事故は十三日で発生から一週間。死亡した作業員2人は落下した橋桁の東側の端付近で発見され、地上にいた警備員の男性(モ)は橋桁と歩道のフェンスに挟まれていたなど、現場の状況が分かってきた。橋桁の撤去までは少なくとも一カ月かかるとみられ、県警の現場検証は長期化が見込まれる。

関係者によると、亡くなった室田久生さん(五三)と名古屋市天白区と前田要さん(五三)は北九州市八幡西区に含む3人が橋桁の東側の端付近で倒れていたという。県警によると、死亡した2人の死因は頭部や臓器など複数の部位が損傷する「多発損傷」で、高所から落ちて死亡した可能性が高い。

地上にいた警備員は、落ちてきた橋桁と歩道のフェンスに挟まれ、胸と左腕にけがを負った。関係者によると、身動きが取れなくなり、消防がフェンスを切断して救助した。西側の高架上には、重軽傷それぞれ一人ずついた。残り二人のけが人は自力で地上に下りたという。

静岡市消防局港北消防署によると、一九番があった。

静岡バイパス高架道路工事8人死傷事故 静岡市清水区尾羽の国道1号静岡バイパスで6日午前3時10分ごろ発生。高架道路工事中に橋桁を橋脚に設置する際、全長63m、重量約140トンの橋桁が落下し、作業員2人が死亡、警備員1人を含む6人が重軽傷を負った。県警が業務上過失致死傷容疑で捜査しているほか、工事を発注した国土交通省静岡国道事務所が事故調査委員会を設置し、原因究明を進めている。



たのは午前三時九分。「橋脚が倒れ、一人が挟まれていた」といった内容だった。

「安全違反 機器異常考えにくい」



芝浦工大 稲積教授

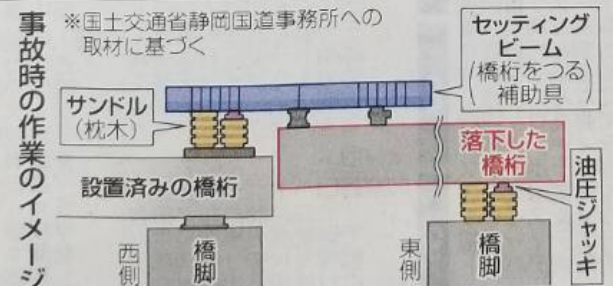
事故は、橋桁を横に移動させた後、油圧ジャッキで橋桁を徐々に降下させ、橋脚に設置する作業中にバランスを崩して橋桁が落下したとみられている。芝浦工業大(東京)の稲積真哉教授(土木工学)は「写真は「安全基準の違反や機器の不具合は考えにくく、作業中に何らかのトラブルが起きたのでは」と推測する。橋桁を横移動させる際に水平を保つため、西側の橋脚に設置済みの橋桁に「セッティングビーム」と呼ばれる仮設の補助具を設置し、橋桁をつるして適切な

十七分後に救助隊などが現場に到着。地上に複数人が倒れていた。想定よりも規模が大きいと判断し、応援隊を要請。最終的には五つの消防署から二十一隊、計六十七人が出動した。救助が終わったのは午前四時四十一分だった。

現場では、県警が業務上過失致死傷容疑で検証を続けている。捜査関係者は「業者に橋桁を撤去してもらったにも一カ月はかかる」と話

しており、現場検証は長期にわたるとみられる。

六日の事故発生以降、国道1号静岡バイパスでは下り線を封鎖し、上り線で片側一車線の対面通行規制が続いている。国土交通省静岡国道事務所は東名高速道路などへの迂回を呼びかけており、事故前比べて目立った渋滞は発生していないという。同事務所は「規制区間の迂回にご協力をお願いしたい」としている。



事故時の作業のイメージ位置までスライドさせる。その後、東西の橋脚にあるジャッキを連携させ、枕木の役目を果たす「サンドル」(高さ十五センチ)を一段ずつ抜

き取りながら降下させていく段取りだった。「一般的な工法(稲積教授)という。稲積教授は、公共工事は「チェックが非常に厳しい」と指摘。発注元の国土交通省の職員が現場に立ち会い、作業の進み具合や使用機器の安全性などを確認していくため「作業の手抜きや機器の異常は考えにくい」とみる。

「ニュースで一見した限り、工事現場に異常な点は見当たらない」とした上で「ジャッキの操作やサンドルを抜き取る作業中に、何らかのミスがあった可能性もある。いずれにしても、検証には時間がかかるだろう」と話した。

(鈴木弘人、板倉陽佑)

カツオ盗の運社長に2年6静岡地裁公判、第焼津港内で計量せずに冷凍カツオとして、窃盗罪に焼津市の運送会社社長、堀住(三)同市市の論判が十二日、静岡り、検察側は懲役を求刑した。判決十八日。

検察側は論告で上前から常習的だった組織的犯行と住被告は未計量の才を搬出する実行行態様は巧妙で重張した。

最終弁論で弁護住運送は同市の社社「マルテ小林的の運送業務を担の冷凍カツオ搬出断れない立場だ

妻を囑託殺起訴内容を地裁沼津支沼津市のビジの客室で昨年十を受けて妻「当時害したとして、罪に問われた東の無職須田幸雄初公判が十二日沼津支部でありは「間違いない